

論文審査の結果の要旨及び担当者

| | | | |
|--|-------------|------|-------|
| 報告番号 | 博（医）甲第1252号 | 氏名 | 入江 暢幸 |
| 論文審査担当者 | | 主査教授 | 近藤 宇史 |
| | | 副査教授 | 平野 明喜 |
| | | 副査教授 | 上谷 雅孝 |
| 論文審査の結果の要旨 | | | |
| <p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、Glioblastoma における低酸素で誘導される転写因子 HIF-1 の発現を調べることで腫瘍内が低酸素に陥っているかどうか、また HIF-1 発現が予後や放射線治療抵抗性と関連するかを検討したもので、目的は十分に妥当である。</p> | | | |
| <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>手術で病理診断のついた Glioblastoma 60 例のパラフィン包埋標本を用いて ABC 法による免疫染色を行い HIF-1 の発現を検討した。陽性細胞の割合と染色程度をそれぞれ点数化し評価した。研究手法も妥当である。</p> | | | |
| <p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、Glioblastoma では HIF-1 が発現しており腫瘍内が低酸素に陥っていることが示された。HIF-1 の発現の程度は、Progression free survival や Overall survival と関連しており、放射線治療抵抗性の指標となりうることを示唆された。HIF-1 の発現が強い症例では、通常の局所照射に続いて定位放射線照射を追加するのがよいと思われた。このように HIF-1 の発現をみることで術後の放射線治療プロトコルの選択が可能となり、脳腫瘍の治療進展に大いに期待できる研究結果と思われる。</p> | | | |
| <p>以上のように本論文は脳腫瘍あるいは定位的放射線治療全般の研究に貢献するところが非常に大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p> | | | |